

Rotary Club of TAKADA Report

国際ロータリー第2560地区
スローガン

ロータリーはステージ・
みんなが輝く！

高田ロータリークラブ
会長方針

ロータリーに共に参加し、
共に学び、共に楽しもう



2024-2025年度

国際ロータリー会長

ステファニーA.アーチック

第2560地区ガバナー

南雲博文

高田ロータリークラブ会長

飯塚宏佳

幹事

細野仁

広報・会報・雑誌委員会：

佐藤勝則 箕輪賢一 倉田 亮

第3回例会 7月26日(金)

No.3

会長挨拶

●飯塚宏佳



こんにちは。本日は米山奨学生の李博さんが来られています。という事で本日はその辺りから話題を探していきたいと思います。お題は奉仕の人 米山梅吉です。

昨日初めて米山梅吉という人について真面目に生い立ちから調べましたら、沢山の物語がありました。

そこで直前会長の山田さんに聞いて、今回は「第1回」という事で行きたいと思います。

皆さんご存じの米山梅吉さんは明治元年東京で和田竹造の3男として生まれます。4歳の時父の死と共に母うたの郷里の三島（現在でいう静岡県駿東郡長泉町）へ移り住みます。

幼い頃から神童と呼ばれ大変優秀だったようで、隣の部落の米山家から養子縁組を望まれることとなります。米山家は所謂名主で、400年続く名家だそうです。

正式な養子縁組はまだ先になりますが、昔の日本では上杉謙信、森鴎外、吉田茂など血縁よりも優秀な人材を養子に迎え入れ、家を存続させる事を重視していたようです。ちなみに今年度初例会で私も養子だとお話ししましたが、私は完全に血縁ですので当てはまりません。子供の頃は新聞記者になりたかったらしく、弁論を好み自作の雑誌を作り回覧したり、『穎才新誌』（えいさいしんし）日本最初の子ども向け投稿雑誌にも投稿したりしています。後にそのことに触れ「夏目金之助というのと僕のが一番よく出たよ。それで名を覚えていたが、これがその後の漱石だった。」と語っていたようです。

米山家には「はる」と言う娘さんがいて、将来的に結婚という流れだったのですが、そのまま田舎で一生を送る事を良しとせず、15歳の時になんと家出をして東京に行きます。銀座江南学校に通い、お金もなく苦しんだようですが、生涯の恩人「藤田四郎」に出会います。

17歳で東京府吏員採用試験を受けて合格したことで経済的に余裕もでき、渡米する夢を膨らませていきます。正式に米山家に入籍もし、20歳の年末にいよいよ渡米します。

さて長くなりましたので、第1章はこれぐらいにしておきます。先は長いですね、私も希望が見えてきました。米山奨学金制度は米山梅吉さんの功績をたたえ、東京ロータリークラブで作られた制度です。

1954年に最初の奨学生をタイから迎え入れ今年で70年です。その年に当クラブで李博さんを迎え入れることができ感謝します。これからもご協力お願いいたします。



出席報告

出席率 100%

メイクアップ

飯塚宏佳君・細野 仁君・山崎公一君・西山要耕君：
7/17 衛星クラブ顔合わせ会
高橋正彦君・佐藤勝則君：7/20 クラブ活性化セミナー
遠藤 巖君・羽深耕時君・石倉 悟君・本山秀樹君・高橋
正彦君・橋詰敏一君・霜村 浩君・箕輪賢一君・宮下啓三
君・中田 正君・高橋幸治君・細野 仁君
：7/21 第7分区親睦ゴルフ大会

セレモニー



米山記念奨学金贈呈：
李 博さん

ニコニコBOX紹介

遠藤 巖君：第7分区親睦ゴルフコンペで優勝させてい
ただきました。これからも頑張りますのでよろしくお
願いします。

橋詰敏一君：先般、第7分区親睦ゴルフでまたしても BM
賞をいただけてしまいました。BM 賞ドロボーにならぬ
よう益々精進します。

高坂光一君：7月23日大人と子供の絵本「活火山やけ山」
を無事発行することができました。

会員インフォメーション

高坂光一君：大人と子供の絵本「活火山やけ山」の紹介

幹事報告

配布物：週報No.2、ポケット名簿

卓話：

幼児期の「遊び」の大切さについて



上越教育大学大学院学校教育研究科
発達支援教育実践研究コース（幼年教育領域）
教授 山口美和様

幼児教育・保育とは、幼稚園・保育所・認定こども園等で義務教育の前に行われる教育を指します。「教育」というと小学校からスタートするよう
に思われていますが、実は幼児期から大切な教育が行われています。

近年、経済界において、人生で成功するためのスキルとして、精神的・肉
体的健康、根気強さ、意欲、自信といった「非認知的スキル」に注目が集ま
っています。これらのほとんどは、幼児期に発達することから、幼児教育の
重要性が認識されるようになりました。

幼稚園や保育園の生活を見ると、学校のように教科書やテストがなく、毎
日遊んでいるだけのように見えるため、何を学んでいるのか一見わからないか
もしれません。幼児教育では、教師が直接「教える」ことよりも、子ども
が遊びの中で自発的に「学ぶ」ことを重視しているのです。こうした幼
児教育のアプローチの根底には、子どもは自分の周囲の世界に積極的に働
きかける有能な存在であると考え「有能な学び手としての子ども観」が
あります。もともと子どもが持っている力を引き出すのが、自由
で自発的な活動としての「遊び」です。

子どもたちは遊びの中で試行錯誤を繰り返し、友達と協力し、体験しながら物理法則を学び、文字や数など
への好奇心を育てていきます。保育者は、子どもの挑戦を見守り、励まし、一緒に考え、成功を喜ぶといった
「援助」を行うことで、子どもの力を引き出そうとしているのです。



本日のお食事 うな井

